

松本市教育研修センターだより

No.47 令和8年3月5日

私たちの「学びの軌跡」と「これからの景色」

令和7年度もまとめの時期を迎えました。市独自の研修が始まって3年目。松本市独自の研修体系は、先生方の温かな意欲に支えられ、一つの「文化」として根付き始めています。

今年度の延べ参加者数は3,590名。令和5年度の3,084名から、3年間で約500名もの増となりました。この中でも「希望研修」への参加が、3年前の630名から770名へと大きく伸びている点は、先生方がやってみたいと一歩を踏み出すチャレンジの現われだと考えられます。多くの先生方の参加、ありがとうございました。

【令和7年度松本市教職員研修】

	研修の種類	講座数	参加者数 (令和7年度)
A	基礎研修	4	110名
B	職務研修	11	594名
C	専門研修	31	388名
D	課題研修	12	412名
E	特別研修	12	1,866名
F	支援員等研修	5	220名
	合計	75	3,590名
	指定研修		2,820名
	希望研修		770名



今年度のリフレクションの中で、多くの先生から「対話を通じて、自分の学校観がアップデートされた」というようなふり返りがありました。研究主任研修での講師、大日向中学校青山校長先生が示されたように、**私たちは新しい「アプリ（手法）」をインストールするだけでなく、学校の「OS（文化）」そのものを、子ども主体のものへと書き換えようとしています。**これを実現するためには、私たちは新しい情報を取り入れながら、「今」を見つめ、「未来」を考え、実践を通じてリフレクションするというサイクルが必要です。その時、共に考えられる同僚や他校の先生方との対話が、アップデートにつながっていくのでしょね。

【「余白」と「試行」を楽しむ】

「明日、これを試してみよう」。そう思えたなら、もう新しい年度への助走は始まっています。うまくいかなかったら、同僚と一緒に「やり直し」を楽しみましょう。先生方の「やってみたい」という小さな火を、私たちは全力で応援します。

来年度も、先生方の「やってみたい」の伴走者として、このセンターを皆さんの「実験場（ラボ）」にしていければ幸いです。裏面では、令和8年度の注目研修を紹介します。ご覧ください。

令和 8 年度 松本市教職員研修のご案内

「子どもが主人公」の学校を、共につくる「みんなの未来の学校」

松本市教育研修センターでは、令和 8 年度も、先生方が「明日、教室に行くのが楽しみになる」ような、多彩な学びの場を企画しました。

1. 教育の「本質」と出会う：哲学とマインド

○まつもと「学びの日」(7/28)

私たちが目指す「子どもを学びの主体として尊重する」とは、どういうことか。哲学者の苦野一徳先生と共に、市全体の機運を高める特別な一日です。音楽文化ホールと各校を繋ぐハイブリッド形式で開催します。

○達人に学ぶ！学級づくり (8/3)

軽井沢風越学園の初代校長岩瀬直樹氏から、子どもが安心して自分を出せる「ラボ」としての学級づくりを学びます。今年は夏季休業中に **3 時間** たっぷりお届けします。研修という名の「最高の自分磨き」を体験しませんか。

○子どもの権利条例を学ぶ (9/8) (9/9、10 は、学校訪問)

松本の宝である「子どもの権利条例」を、どう現場で活かすか。木村先生と車座になって語り合い、「小さな一歩」を探します。訪問支援では『ご指導』ではなく、先生方の思いに寄り添う一人の『支援者』として学校に来てくださいます。

2. 学校を「チーム」に変える：組織とマネジメント

○生徒指導主任等・管理職研修 (5/11・12)

大阪大学名誉教授の小野田正利先生からトラブル対応の秘訣を学び、校長・教頭・主任が同じ視点で動ける組織を構築します。

○カリキュラムマネジメント研修 (5/29・10/9)

大阪教育大学特任教授の陸奥田維彦先生と大阪教育大学教授田村知子先生と共に、ふり返りを学校改善に繋げる「組織を動かす」経験を積み上げていきます。

○対話する職員集団を創る (4 月～7 月)

良い授業の土壌は、職員室のコミュニケーションにあります。4 月から 7 月にかけて、自校の「対話」を活性化し、ビジョンを共有していくための具体策を学び合います。

3. 教室に「寄り添い」を届ける：伴走と継続

○ようこそ 先生！ (学校訪問支援)

・ファシリテーション研修 (11/7)

ちょんせいこ先生からファシリテーションの技術を学び、「能動的な聞き手」のあり方を考えます。

・教師と子どもの絆を深める授業づくり (5 校)

岩川直樹先生と中村麻由子先生が学校を訪問し、授業実践や対話を通して直接支援します。

・デジタル・シティズンシップ研修 (10/2)

今度珠美氏が訪問。授業参観と講評を通し、これからのデジタルの付き合い方を共に考えます。

○自己肯定感を高める授業づくり (年間 6 回)

高橋史先生によるオンライン伴走。道徳の授業プログラムを実践しながら、生徒の変容を共有し合います。

来年度も 70 を超える研修を用意しています。1 つでも 2 つでも自分をアップデートするきっかけになればと思います。